

決算説明会

2016年3月期第3四半期

2016年2月3日
ミネベア株式会社

売上高は1Q-3Q累計として過去最高

(百万円)	2015年3月期	2016年3月期	前年同期比
	1Q - 3Q累計	1Q - 3Q累計	伸び率
売上高	361,961	474,215	+31.0%
営業利益	43,842	42,901	-2.1%
経常利益	43,235	38,446	-11.1%
純利益	30,980	29,584	-4.5%
一株当たり 純利益(円)	82.91	79.10	-4.6%

為替レート	15/3期	16/3期
	1Q - 3Q累計	1Q - 3Q累計
US\$	105.80円	121.59円
ユーロ	139.83円	133.88円
タイバーツ	3.27円	3.51円
人民元	17.10円	19.35円

2016年2月3日

1

2016年3月期第3四半期累計の連結業績は、売上高は大幅に増加し、第3四半期累計期間としての過去最高を更新しました。一方、営業利益については若干の減益となりました。

中国経済の減速懸念など世界経済の不透明感が増していますが、当社の事業領域である高級消費財向け精密部品においては底堅い需要が続いています。特にボールベアリングの外部販売数量は四半期毎に確実に増加しており、今後も安定的な成長が見込まれます。しかしながら、急拡大してきたスマホ市場向けLEDバックライトにおいて客先の減産の影響があり、全体としては若干の減益となりました。

売上高は、四半期でも過去最高

(百万円)	2015年3月期		2016年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	3Q	2Q	3Q	3Q		
売上高	145,403	168,162	178,661		+22.9%	+6.2%
営業利益	19,080	14,905	15,484		-18.8%	+3.9%
経常利益	18,599	10,453	15,120		-18.7%	+44.6%
四半期純利益	13,163	7,700	11,825		-10.2%	+53.6%
一株当たり 四半期純利益(円)	35.22	20.59	31.61		-10.2%	+53.5%

為替レート	15/3期3Q	16/3期2Q	16/3期3Q
US\$	112.34円	122.56円	121.23円
ユーロ	141.29円	136.35円	132.56円
タイバーツ	3.45円	3.51円	3.37円
人民元	18.30円	19.55円	19.02円

2016年2月3日

2

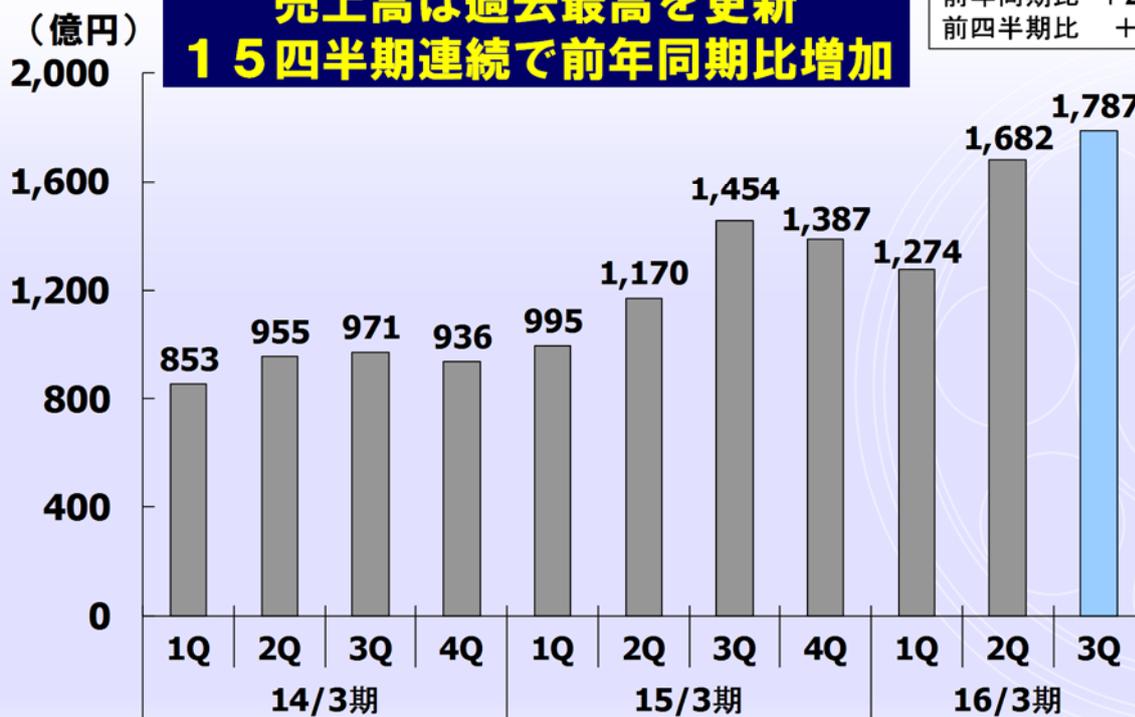
2016年3月期第3四半期の連結業績は、前四半期比で増収増益となり、売上高は四半期としての過去最高を更新しましたが、前年同期比では増収減益でした。

売上高の伸びの主要因は、ハイエンド・スマホの新モデル向けLEDバックライトにおける外部調達部品の増加による単価上昇です。利益については、前四半期比ではほぼすべての事業において増益となりました。計画比でもLEDバックライトが客先の減産の影響により大幅な未達となりましたが、それ以外の事業においては計画を上回る利益となりました。

為替の影響は、売上高で前年同期比プラス90億円、前四半期比マイナス21億円あったと推計しています。営業利益への影響は前年同期比プラス42億円、前四半期比プラス8億円との推計です。

**売上高は過去最高を更新
15四半期連続で前年同期比増加**

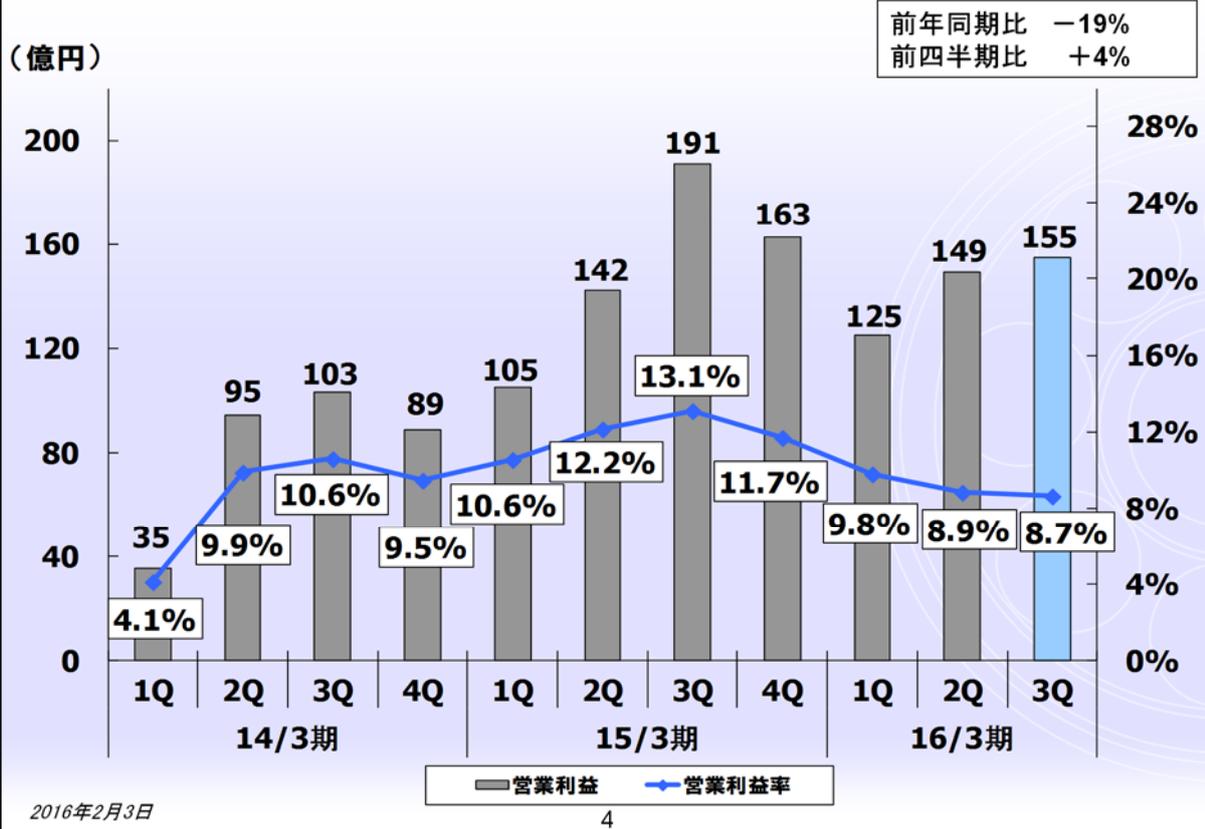
前年同期比 +23%
前四半期比 +6%



2016年2月3日

3

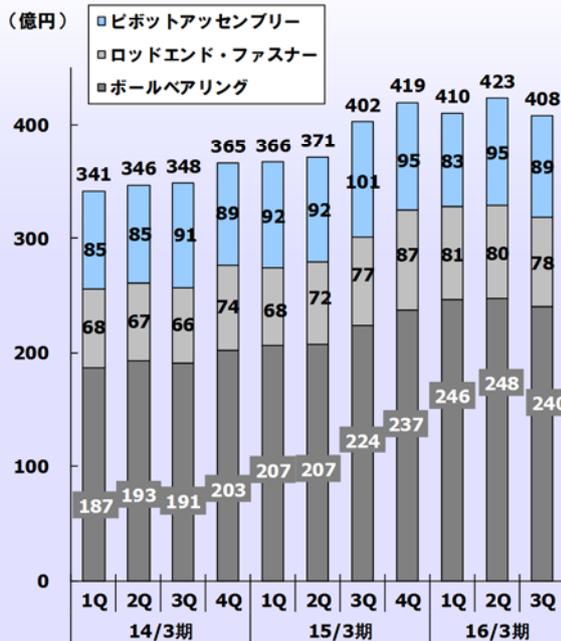
売上高は、前年同期比23%増、前四半期比6%増の1,787億円となり、四半期としての過去最高を更新しました。前年同期比での増収は、15四半期連続です。



営業利益は前年同期比マイナス19%、前四半期比4%増の155億円で、営業利益率は前四半期から0.2ポイント低下し8.7%となりました。

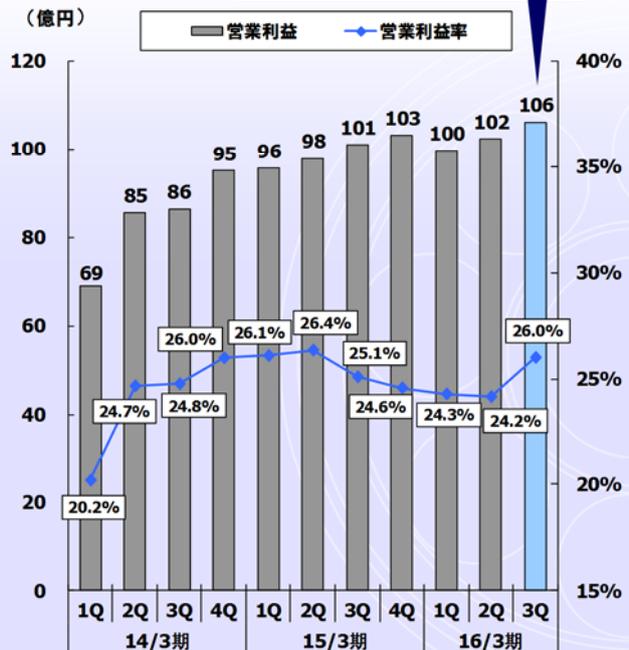
機械加工品事業においては四半期として過去最高益を更新し、電子機器事業においてもモーターや計測機器で着実に利益を増加させることができました。しかし、対前年同期比で減益、対計画比で未達となった主要因は、LEDバックライトにおいて主要顧客から内示のあった当初要求数量と実際の販売数量との間に想定以上の大きなかい離が出たためです。

売上高



営業利益

過去最高を更新



※16/3期より各セグメント間での軽微な変更があり、比較のため15/3期分の数値を過年度遡及修正しています。

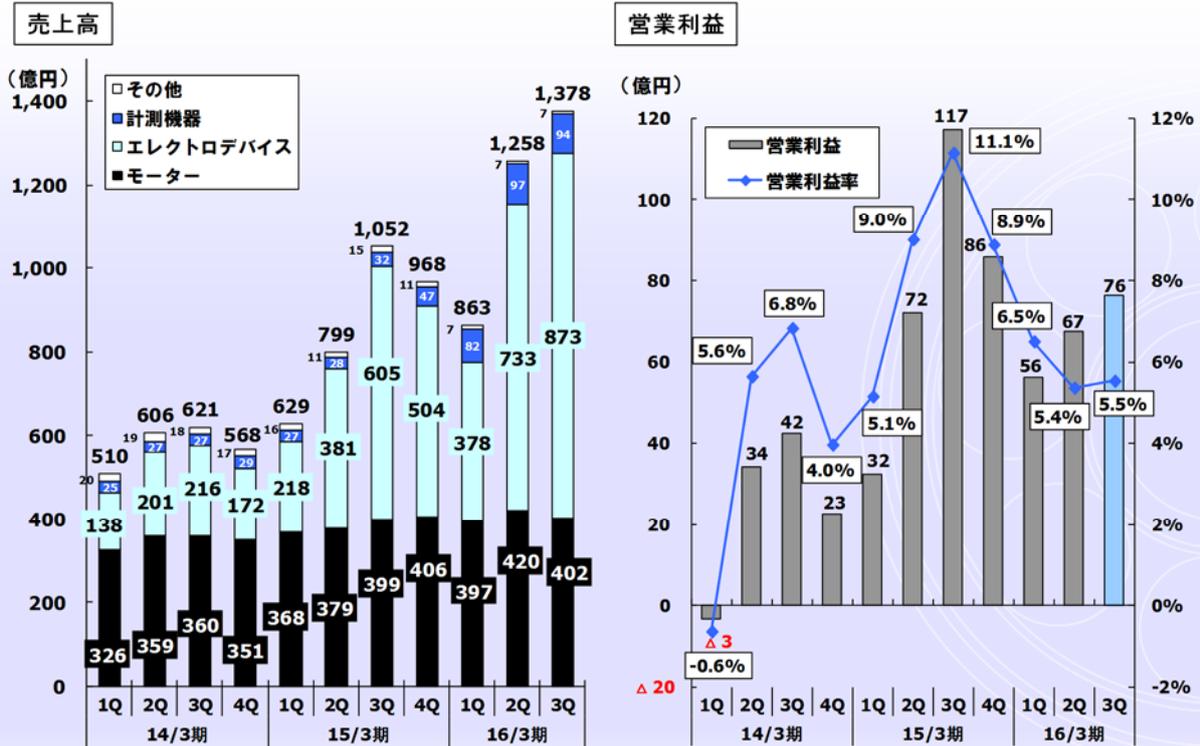
2016年2月3日

機械加工品事業セグメントの第3四半期の業績は、売上高は前年同期比で1%増、前四半期比ではマイナス4%の408億円となりました。営業利益は前年同期比で5%増、前四半期比では4%増の106億円と過去最高益でした。年間で400億円台の営業利益が着実に上げられる盤石な体制が整ってきたと見ています。営業利益率は、前四半期で発生した米国子会社における一時的なマイナス要因が完全には解消しませんでした。それにもかかわらず、ボールベアリングの堅調な伸びにより1.8ポイント上昇し、26.0%となりました。

ボールベアリングの売上高は、主に円高への反転の影響で前四半期比マイナス3%の240億円となりましたが、前四半期比で利益は増加しました。自動車向けをはじめ様々な用途において力強い需要の伸びが続いており、第3四半期における月次平均の外部販売数量は1億5,600万個と、四半期ベースでの記録を更新しました。

ロッドエンド・ファスナーの売上高は、前四半期比マイナス3%の78億円となりました。欧米のクリスマスという季節性の影響で減収となりましたが、増益を確保しました。今後も世界の民間航空機の生産増加を受けて、堅調な成長が続く見込みです。

ピボットアッセンブリーの売上高は、HDD市場の回復が一服したことにより前四半期比マイナス6%の89億円となりましたが、利益は前四半期比で若干増加しました。HDDの需要減によりピボットアッセンブリーの販売数量は減少傾向にありますが、ハイエンド機種を中心とした受注取り込みにより利益は維持しています。



※16/3期より各セグメント間での軽微な変更があり、比較のため15/3期分の数値を過年度遡及修正しています。
2016年2月3日

電子機器セグメントの第3四半期の業績は、売上高は前年同期比で31%増、前四半期比では10%増の1,378億円となりました。営業利益は前年同期比でマイナス35%、前四半期比では13%増の76億円となりました。営業利益率は前四半期から0.1ポイント上昇し5.5%となりました。

モーターの売上高は、前四半期比でマイナス4%の402億円となりました。前四半期比で減収となりましたが、各モーターでのコスト削減施策が着実に進展し、増益となりました。

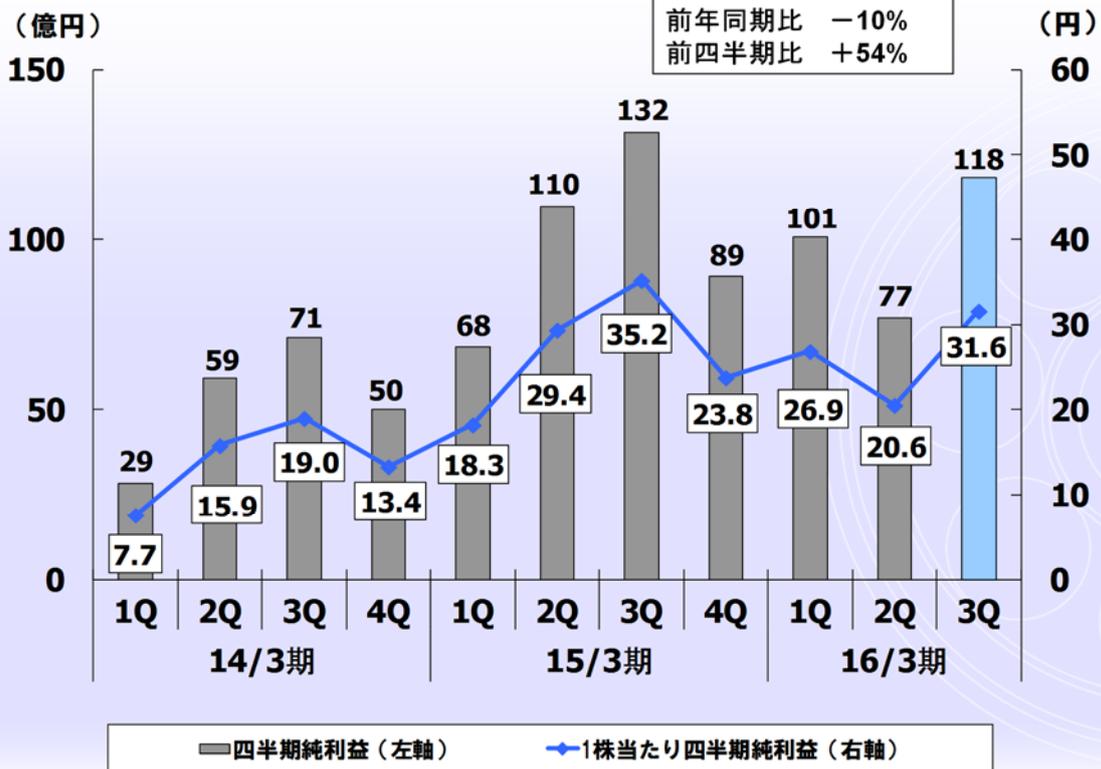
計測機器の売上高は、前四半期比マイナス4%の94億円となりましたが、利益率は高い水準を維持しています。既存事業で自動車向けを中心に堅調な需要があるほか、買収したザルトリウス・メカトロニクスT&Hも順調に収益貢献し、既存事業とのシナジー創出に向けて活発に取り組んでいます。新「5本の矢」戦略の目標の一つである「計測機器事業の売上高500億円」の達成に向け、進捗は極めて良好です。

エレクトロデバイスは、前年同期比では、中国を含む世界スマホ市場の減速を受けて出荷量が大きく減少したため、利益が減少しました。しかし、前四半期比では売上高が19%増の873億円となり、利益も増えました。

純利益

四半期推移

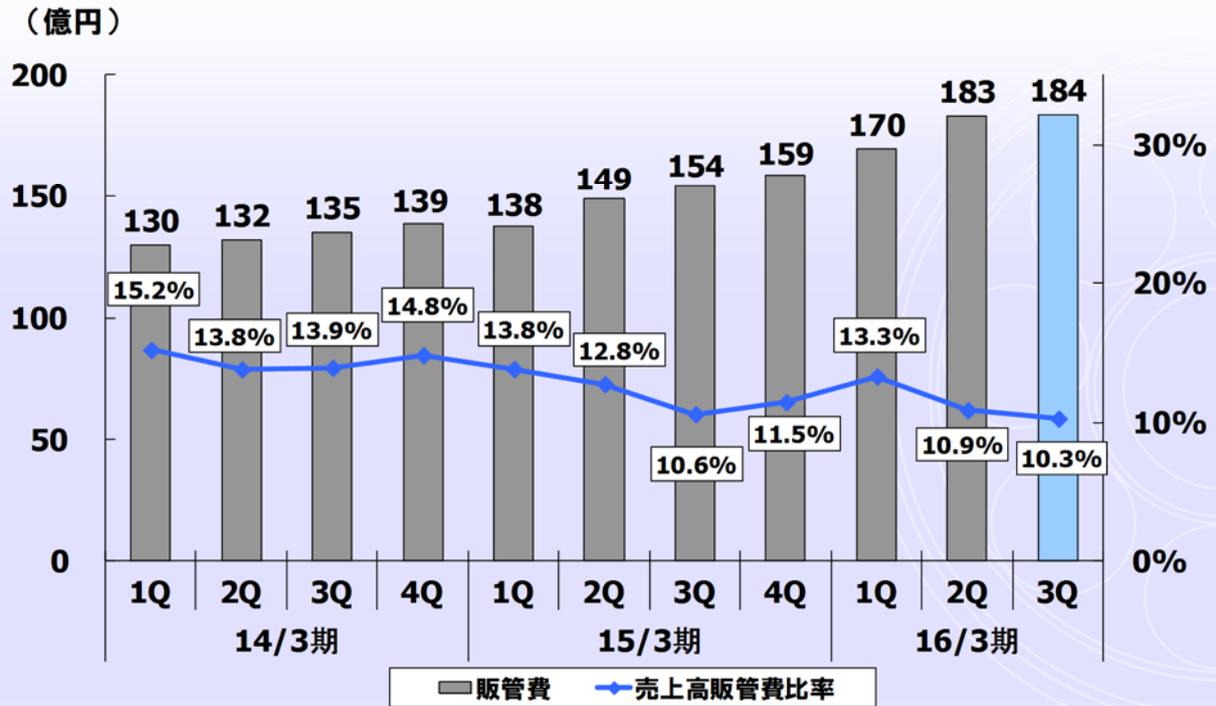
Minebea
Passion to Exceed Precision



2016年2月3日

7

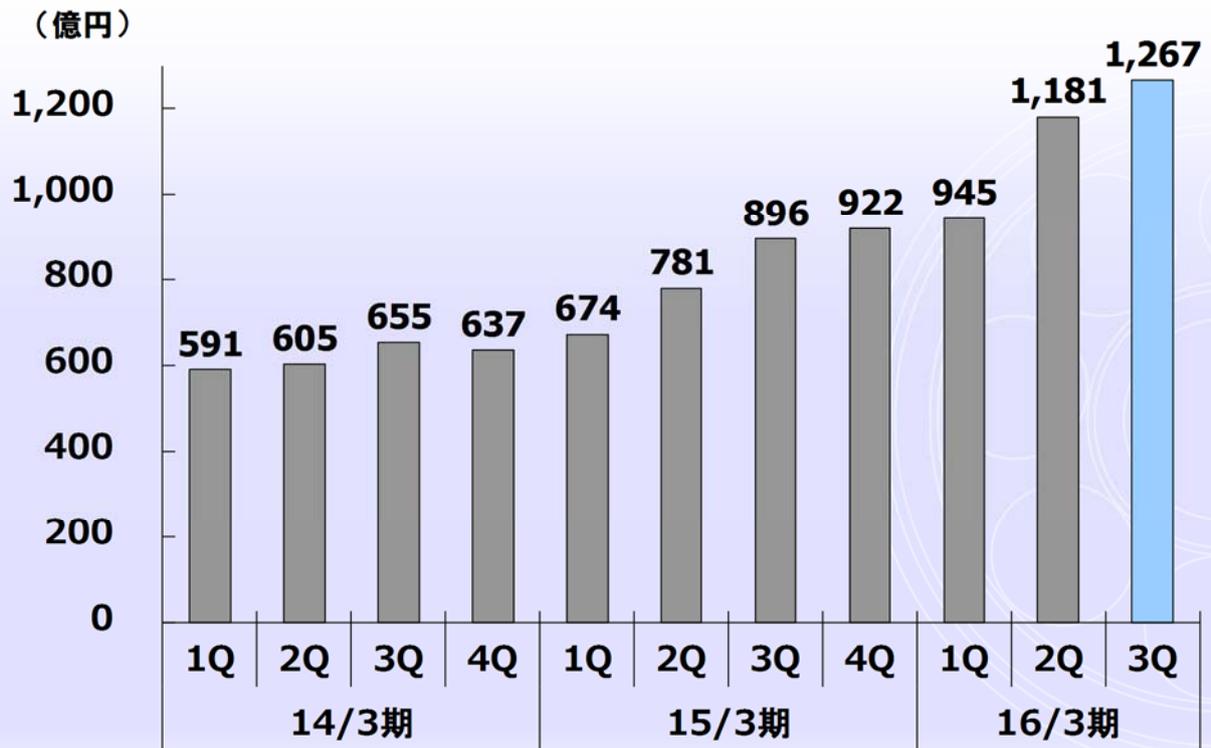
第3四半期の純利益は、前四半期比54%増の118億円となり、1株当たり純利益は31.6円となりました。過去最高の四半期純利益だった前年同期の9割となり、営業利益の落ち込みに比べて、大幅に改善することができました。これは実効税率の改善や事業構造改革の一巡によって、経営体質の改善が進んできたためと考えています。



2016年2月3日

8

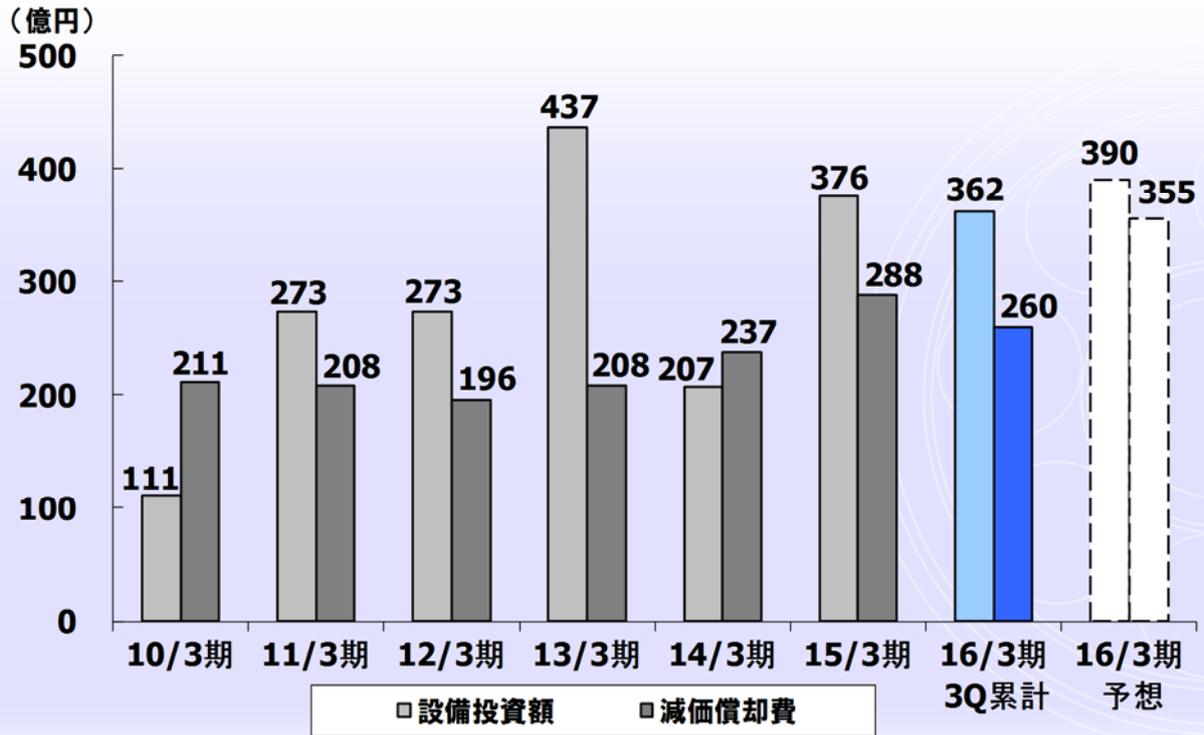
販管費は、売上高の増加による経費増を最小限に抑えたことによって、前四半期比1億円増の184億円となりました。売上高販管費比率は前四半期からさらに0.6ポイント減少し10.3%と改善が進み、四半期決算での過去最低となりました。



2016年2月3日

9

第3四半期期末のたな卸資産は3か月前と比べて86億円増の1,267億円となりました。これは、LEDバックライトが11月から客先の減産の影響を受けたため、一時的に出荷前の在庫が滞留したためです。現在、在庫調整を進めており、3月末に向けて着実に減少していく見込みです。

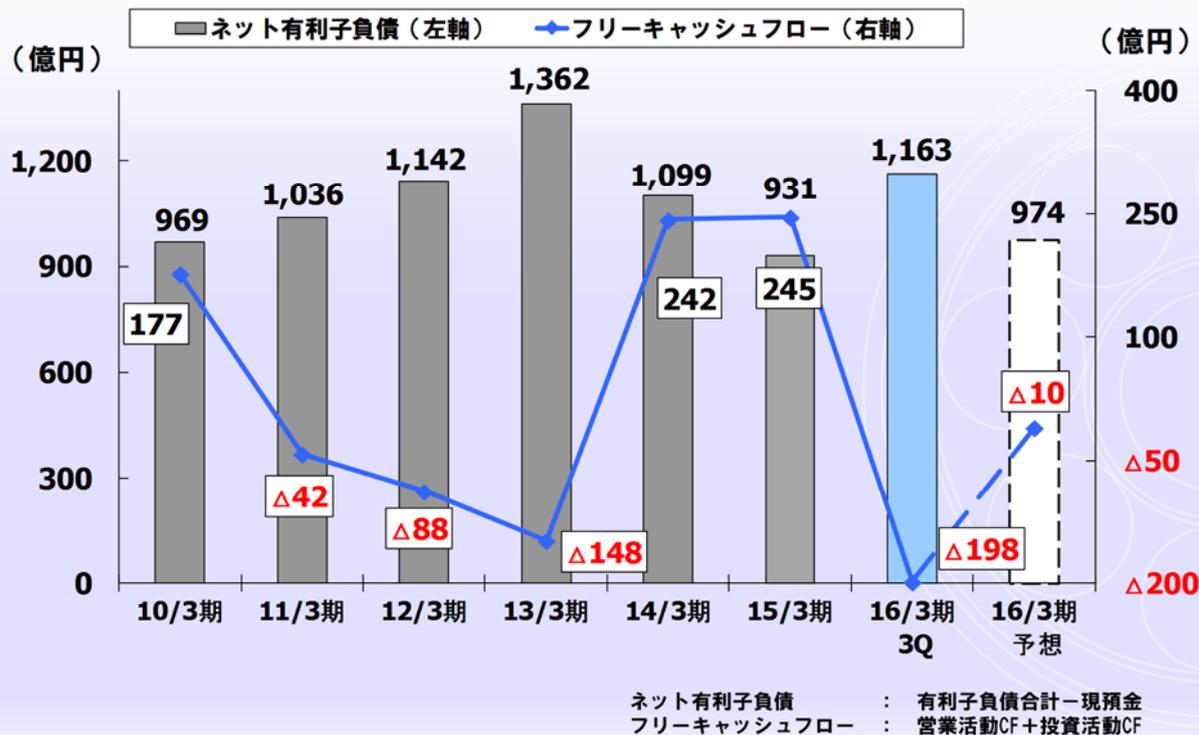


2016年2月3日

10

第3四半期累計の設備投資は362億円、減価償却費は260億円でした。

設備投資は、需要好調な計測機器やカンボジア工場第3棟新設工事などで投資が増えることにより、今期予想を34億円上方修正しました。減価償却費は、今期355億円となる見込みですが、来期以降はLEDバックライトにおける加速償却部分の減少に伴い、大きく減少していく見込みです。



2016年2月3日

11

このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移です。

第3四半期末におけるネット有利子負債は1,163億円となり、3か月前と比べて106億円の増加となりました。これは主に、LEDバックライト新製品の一時的な在庫増のためです。

フリーキャッシュフローは198億円のマイナスとなりました。LEDバックライトの在庫は3月末に向けて着実に減少する見込みで、通期のフリーキャッシュフローはマイナス10億円と、9か月累計実績からは改善し、期末のネット有利子負債も974億円へ減少する見込みです。

今期業績予想を下方修正も、 売上と純利益は過去最高を更新する見込み

(百万円)	2015年3月期		2016年3月期			
	通期	1Q-3Q累計	4Q 予想	通期 修正予想	通期予想 前期比	通期 11月計画
売上高	500,676	474,215	160,785	635,000	+26.8%	680,000
営業利益	60,101	42,901	12,099	55,000	-8.5%	66,000
経常利益	60,140	38,446	11,554	50,000	-16.9%	62,500
純利益	39,887	29,584	10,416	40,000	+0.3%	48,000
一株当たり 純利益(円)	106.73	79.10	27.83	106.93	+0.2%	128.34

為替レート	15/3期 通期	16/3期 1Q-3Q平均	16/3期 4Q想定	16/3期 通期想定	16/3期 通期11月想定
US\$	109.19円	121.59円	121.00円	121.44円	121.39円
ユーロ	139.38円	133.88円	136.00円	134.41円	135.28円
タイバーツ	3.37円	3.51円	3.38円	3.48円	3.49円
人民元	17.60円	19.35円	19.00円	19.27円	19.26円

2016年2月3日

12

第3四半期の計画未達を受け、今期業績予想を下方修正します。

今期の売上と純利益は、前期に続いて過去最高を達成する見込みです。

機械加工品事業においてはボールベアリング販売の好調を受けて過去最高水準の利益が継続しており、電子機器事業においてもモーターや計測機器で着実に利益を上げることができる体制となってきました。

来期に向けては、LEDバックライトにおいても計画した利益を確実に確保できるよう、新規モデルの早期立ち上げに努力してまいります。

(百万円)	2015年3月期		2016年3月期			
	通期	1Q-3Q累計	4Q 予想	通期 修正予想	通期予想 前期比	通期 11月計画
売上高	500,676	474,215	160,785	635,000	+26.8%	680,000
機械加工品	155,785	124,013	40,987	165,000	+5.9%	168,000
電子機器	344,724	349,814	119,686	469,500	+36.2%	511,300
その他	166	387	113	500	3.0倍	700
営業利益	60,101	42,901	12,099	55,000	-8.5%	66,000
機械加工品	39,722	30,781	11,019	41,800	+5.2%	42,000
電子機器	30,747	19,967	4,433	24,400	-20.6%	35,000
その他	△28	△35	△165	△200	7.1倍	△200
調整額	△10,340	△7,811	△3,189	△11,000	+6.4%	△10,800

※16/3期より各セグメント間での軽微な変更があり、上記数値はそれを反映しています。

2016年2月3日

13

セグメント別の業績予想はこの通りです。

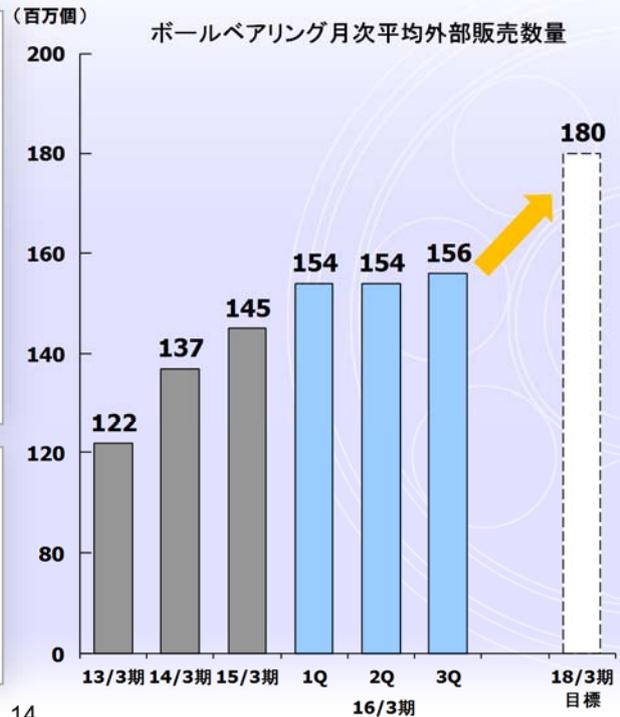
**高級消費財向け部品の需要は堅調に推移、
 利益率も高水準を維持**

**新「5本の矢」戦略の達成に向けて
 順調に進展中**

- ・高級消費財向け精密部品の需要は非常に堅調で、外部販売数量は四半期ごとに増加中。
- ・16/3期の月次平均の外部販売数量は前年比7%増で進展中。3月には今期3回目となる過去最高の外販数量となる見込み。
- ・新「5本の矢」戦略の目標である、18/3期の月次平均外販数量1億8千万個は十分達成可能。

**HDD市場向け縮小も外販の拡大により
 利益率は高水準を維持**

- ・HDD市場の縮小でボールベアリングの内販は数量低下も、外販数量の増加により利益率は高水準を維持。



2016年2月3日

14

当社の主力製品であるミニチュアボールベアリングの状況についてご説明します。

ミニチュアボールベアリングの月次外部販売数量は四半期を追うごとに増加しており、年間では前年比7%増のペースで順調に拡大しています。これは、当社の事業領域である高級消費財向け精密部品の分野において、米国や欧州を中心とする先進国の需要が堅調に推移していることが主要因で、今後も力強い需要が続くと見込んでいます。昨年5月に発表した新「5本の矢」戦略の目標の一つである「ボールベアリングの外販 月平均1億8千万個」の達成に向け、順調に進んでいます。

一方で、ピボットアッセンブリー向けを中心とする内部販売については、HDD市場の縮小により数量は減少傾向にあり、今後も緩やかな減少を想定していますが、外販数量の拡大により収益への影響は最小限にとどめております。加えて、パーツ安の為替影響もあるため、機械加工品の利益率は引き続き高い水準を維持しています。

ミネベア株式会社

決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。